

No. 1281

ドーンと復活、隅田川花火

江戸時代以来、伝統的大衆娯楽として伝えられてきた隅田川の花火が17年ぶりに復活、7月29日、白鬚橋下流～言問橋上流、駒形橋下流～厩橋上流の間で開かれました。熱帯夜が続く東京の夜空に、打ち上げ台船からスターメインが連続発射され、華麗な花が描かれると、80万の見物人からはためいきがもれます。約1時間、一万五千発のスターメイン。江戸情緒たっぷりの光と水の絵巻にゆかた姿がよく似合い、まさに江戸の華といったところです。

730、沖縄

日本の最南端沖縄。沖縄の交通方法が「人は左、車は右」の方式に変わってから30年が経つ。本土に復帰してから6年、最後の復帰処理と言われていた交通方法の変更が7月30日を期して行われることになった。この変更で今まで走っていたバス、タクシーはすべて使用不可能、代わりに左側通行用のバスが用意された。大変なのは運転手、連日、左側通行の猛練習。ハンドル経験20年のベテランも初心者に戻って慎重に運転、変更後に備える。安謝新港には本土からの応援隊が続々到着。

警察官約2600名、パトカー80台、白バイ100台が各警察署に配属され7月30日の本番に出動することになっている。

7月27日、大型の台風8号が接近このため予定より一足早く左側用信号機や大型標識に限ってカバーが取りはずされるという事態となり本番が危ぶまれた。29日には稲村総務長官を迎えて、最後の730合同推進委員会が開れた。席上、長官は「730の事業がスムーズに行くよう頑張ってもらいたい」と関係者を激励。7月29日夜、10時特別交通規制のなか、沖縄全島で信号機の切り替え、標識のカバーはずし道路標識の変更と、交通方法の切り替えにともなう大作業が次々に行なわれた。交通方法実施総合本部には全島の作業のようが次々に報告される。7月30日午前5時50分沖縄全島の車輛が止まるという歴史的な瞬間、各地で車線の変更が始まった。午前6時左側に停車していた車が一斉に動きだし、沖縄の「人は右、車は左」の新交通方法はスタートした。